

令和4年1月～3月期地域産業経営動向調査の結果をとりまとめました

堺市と堺商工会議所では、堺市内の景気動向を把握するため、令和4年1月～3月期の地域産業経営動向調査を以下のとおり実施し、調査結果をとりまとめました。

1 調査対象 堺市内に所在する事業所 800社（回答企業 400社 回答率 50.0%）

2 調査期間 令和4年3月14日（月）～令和4年3月28日（月）

3 調査結果概要

今期（1月～3月期）の前年同期比を見ると、業況判断DI、売上高DI、採算DIが悪化、雇用人員DIが横ばい、資金繰りDIがやや悪化となった。

来期（4月～6月期）の予測については、業況判断DI、雇用人員DIが改善、売上高DIが横ばい、資金繰りDIがやや悪化、採算DIが悪化となった。

数値の推移としては、前年同期比で悪化した項目が多く、世界情勢の急変による原材料費の高騰・物流網の混乱が影響を与えており、市内事業所の業況は全体的に不透明感を増しているといえる。

加えて、コロナ禍収束に向けた見通しは未だに不透明であることから、引き続き市内企業の動向については、注視していく必要がある。

○業況判断	前年同期比の指標は悪化（ $\Delta 10.6 \Rightarrow \Delta 18.8$ ） 来期見通しの指標は改善（ $\Delta 18.8 \Rightarrow \Delta 14.5$ ）
○売上高	前年同期比の指標は悪化（ $\Delta 5.9 \Rightarrow \Delta 12.5$ ） 来期見通しの指標は横ばい（ $\Delta 12.5 \Rightarrow \Delta 11.8$ ）
○採算	前年同期比の指標は悪化（ $\Delta 9.6 \Rightarrow \Delta 13.8$ ） 来期見通しの指標は悪化（ $\Delta 13.8 \Rightarrow \Delta 19.3$ ）
○資金繰り	前年同期比の指標はやや悪化（ $3.5 \Rightarrow 1.0$ ） 来期見通しの指標はやや悪化（ $1.0 \Rightarrow \Delta 0.3$ ）
○雇用人員	前年同期比の指標は横ばい（ $\Delta 5.9 \Rightarrow \Delta 6.8$ ） 来期見通しの指標は改善（ $\Delta 6.8 \Rightarrow 1.5$ ）

問い合わせ先

担当 課：産業振興局 産業戦略部 産業企画課
電 話：072-228-7414
ファックス：072-228-8816

令和4年1月～3月期
地域産業経営動向調査
〔報告書〕

堺 市

〔 調査実施機関 〕

堺商工会議所

調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数 DI 値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所 800 社（建設業 200 社・製造業 200 社・卸売業 100 社・小売業 100 社・サービス業 200 社）
3. 調査期間 令和 4 年 3 月 14 日（月）～28 日（月）

4. 回収率	調査対象数	回収数	回収率	
	建設業	200 社	100 社	50.0%
	製造業	200 社	100 社	50.0%
	卸売業	100 社	50 社	50.0%
	小売業	100 社	50 社	50.0%
	サービス業	200 社	100 社	50.0%
	全産業	800 社	400 社	50.0%

【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- DI 値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

【各項目別の DI 値の意味について】

- 業況判断 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
⇒今期状況 … DI 値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … DI 値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
⇒今期状況 … DI 値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

調査結果の概観

今期(1月～3月期)の前年同期比を見ると、雇用人員DIが横ばい、資金繰りDIがやや悪化、業況判断DI、売上高DI、採算DIが悪化となった。

来期(4月～6月期)の予測については、業況判断DI、雇用人員DIが改善、売上高DIが横ばい、資金繰りDIがやや悪化、採算DIが悪化となった。

数値の推移としては、前年同期比で悪化した項目が多く、世界情勢の急変による原材料費の高騰・物流網の混乱が影響を与えており、市内事業所の業況は全体的に不透明感を増しているといえる。

加えて、コロナ禍収束に向けた見通しは未だに不透明であることから、引き続き市内企業の動向については、注視していく必要がある。

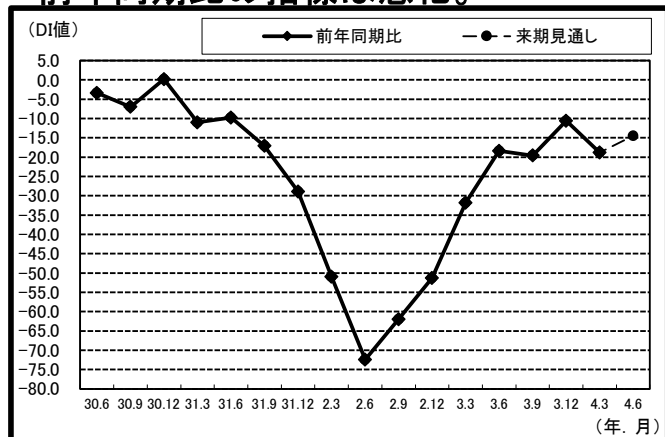
1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標は悪化。
($\Delta 10.6 \Rightarrow \Delta 18.8$)

・来期見通しの指標は改善と予測。
($\Delta 18.8 \Rightarrow \Delta 14.5$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業はやや改善、製造業、卸売業、小売業、サービス業は悪化している。

・前年同期比の指標は悪化。



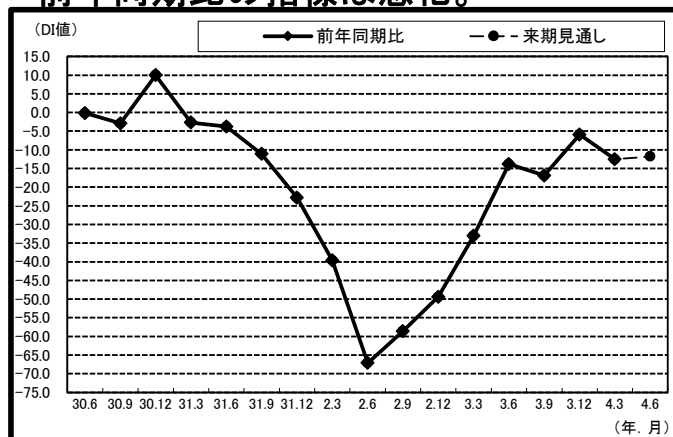
2. 売上高の動向

・前年同期比の指標は悪化。
($\Delta 5.9 \Rightarrow \Delta 12.5$)

・来期見通しの指標は横ばいと予測。
($\Delta 12.5 \Rightarrow \Delta 11.8$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、卸売業は横ばい、建設業はやや悪化、製造業、小売業、サービス業は悪化している。

・前年同期比の指標は悪化。



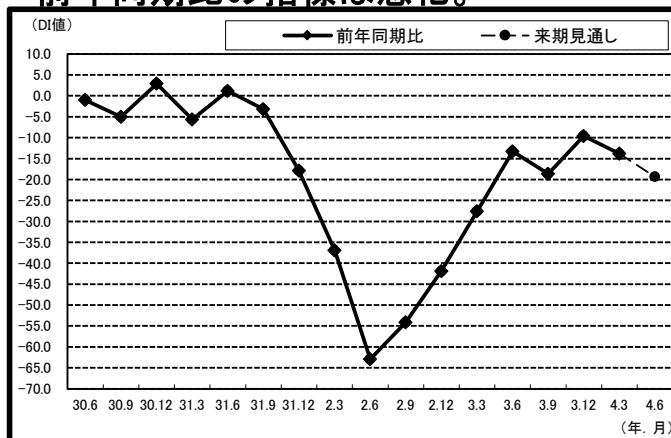
3. 採算の動向

・前年同期比の指標は悪化。
($\Delta 9.6 \Rightarrow \Delta 13.8$)

・来期見通しの指標は悪化と予測。
($\Delta 13.8 \Rightarrow \Delta 19.3$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、
建設業はやや改善、製造業、卸売業、小
売業、サービス業は悪化している。

・前年同期比の指標は悪化。



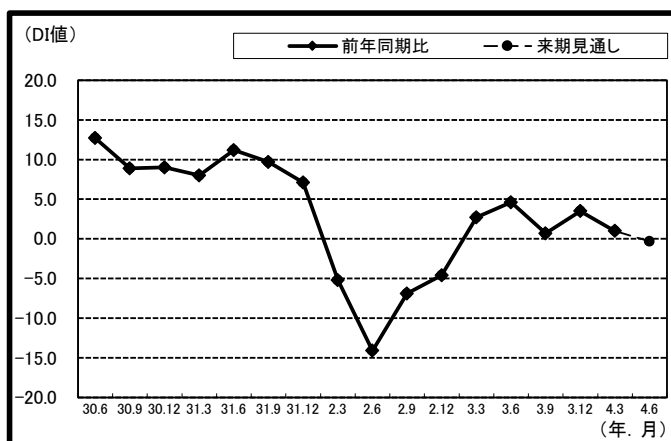
4. 資金繰りの動向

・前年同期比の指標はやや悪化。
($3.5 \Rightarrow 1.0$)

・来期見通しの指標はやや悪化と予測。
($1.0 \Rightarrow \Delta 0.3$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、
小売業は2期連続で改善、建設業は改
善、サービス業はやや悪化、製造業、卸
売業は悪化している。

・前年同期比の指標はやや悪化。



5. 雇用人員の動向

・前年同期比の指標は横ばい。
($\Delta 5.9 \Rightarrow \Delta 6.8$)

・来期見通しの指標は改善と予測。
($\Delta 6.8 \Rightarrow 1.5$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、
製造業、卸売業は改善、小売業はやや改
善、サービス業は横ばい、建設業は2期連
続で悪化している。

・前年同期比の指標は横ばい。

